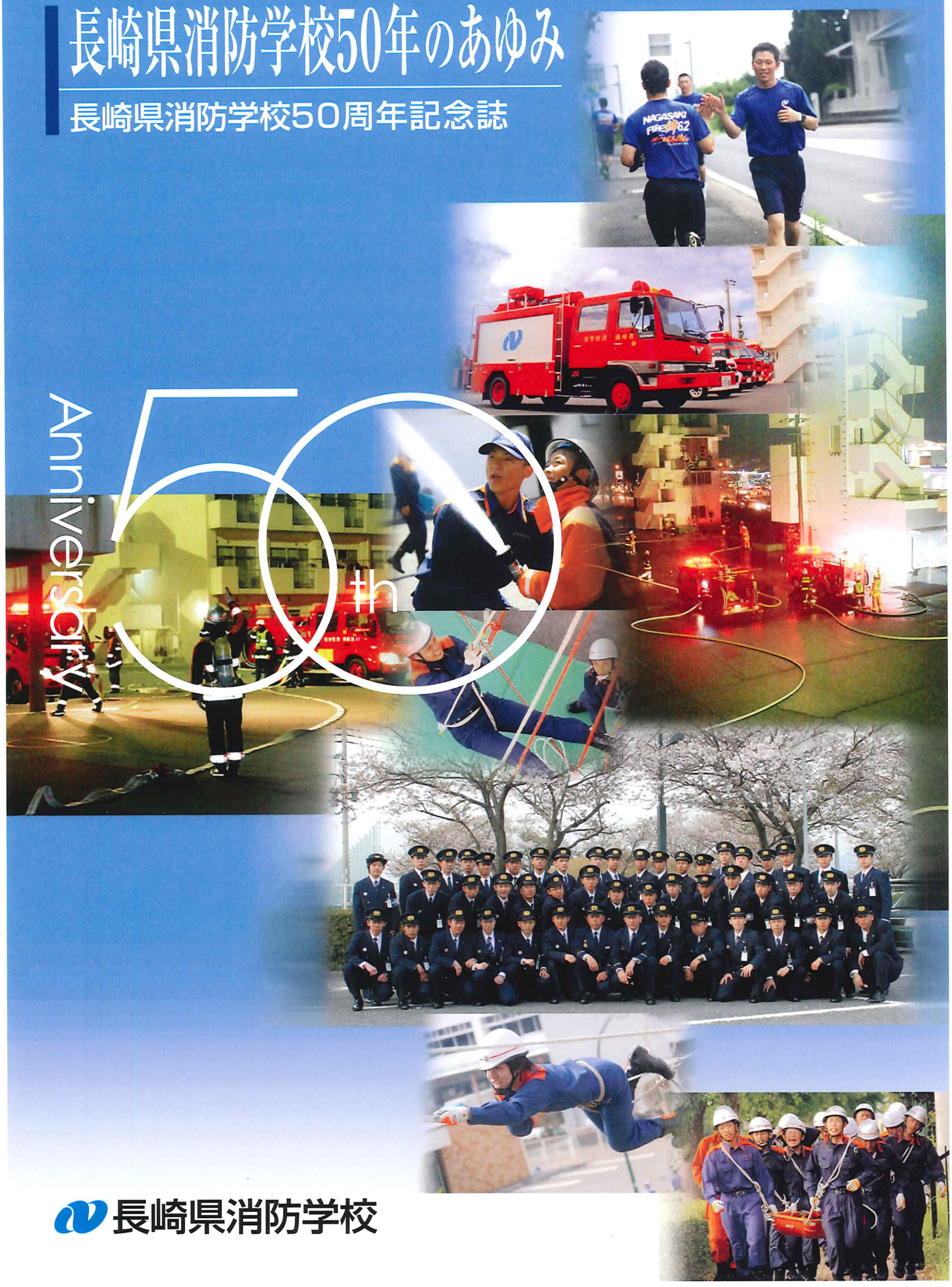
消防学校50年のあゆみ 12.12.12 17:47 ページ 1

# 長崎県消防学校50年のあゆみ

## 長崎県消防学校50周年記念誌




長崎県消防学校

# 発刊にあたって

長崎県消防学校は県内の消防職員及び消防団員の教育訓練を行うため、昭和37年６月に長崎市城栄町に県の訓練機関として設置され、その後、昭和58年３月に現在の大村市森園町に移転し、本年栄えある50周年を迎えることができました。

これを記念して、今日までの歩みの一端を記録に収め、後世に語り継ぐ資料として、「長崎県消防学校５０年のあゆみ」を発刊することになりました。

今日の日をもたらしてくださいました諸先輩のご功績と、ご労苦に心から敬意を表するものであります。

多くの離島・過疎地域を抱える本県は、地勢等に恵まれているとは言えませんが、その状況の中で、決して他にひけをとらない消防体制が確立されておりますことは、各市町長はじめ、消防関係者、医療関係者並びに各関係機関の皆様の献身的なご尽力があったればこそであり、ここに心から感謝申し上げる次第であります。

この間、消防職員、消防団員及びその他消防関係者等、約５万２千人を送り出し、体制づくりの一端を担う事ができましたことは、無上の喜びであり、関係の皆様に心から厚くお礼申し上げます。

言うまでもなく、本県の消防は、これまでに多くの方々のご努力によって、組織、施設、装備等の着実な発展を遂げ、今日では、火災はもとより救急・救助、風水害等の防災対策など、極めて広範囲な活動を行っておりますが、現代社会における災害の態様は、私たちの想像を遥かに超える様相を呈しております。

また、消防組織としては、職員の高齢化や大量退職に伴う対応、消防の広域化問題など、解決すべき課題も山積しております。このような中、住民の負託に応えるためにも消防職員の資質の向上が益々望まれているところであり、本校といたしましても、“住民から信頼される消防士、頼りにされる消防士の育成”を目指し、先輩方が築いて来られた消防の伝統である“和衷協同の消防精神”と“不屈の消防魂”を養い、時代の要請に見合った立派な消防人の養成に全力を傾注し努力して参る所存であります。

最後になりましたが、発刊にあたって貴重なご寄稿や情報をお寄せいただきました方々に厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも皆様方の一層のご支援、ご協力をお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。

平成２４年１２月

長崎県消防学校長
金　子　由　彦

大村市に移転した頃の消防学校の全景
（昭和58年10月27日撮影）

開発が進んだ現在の消防学校周辺の状況
（平成24年11月6日撮影）

消防学校50年のあゆみ 12.12.12 17:47 ページ 4

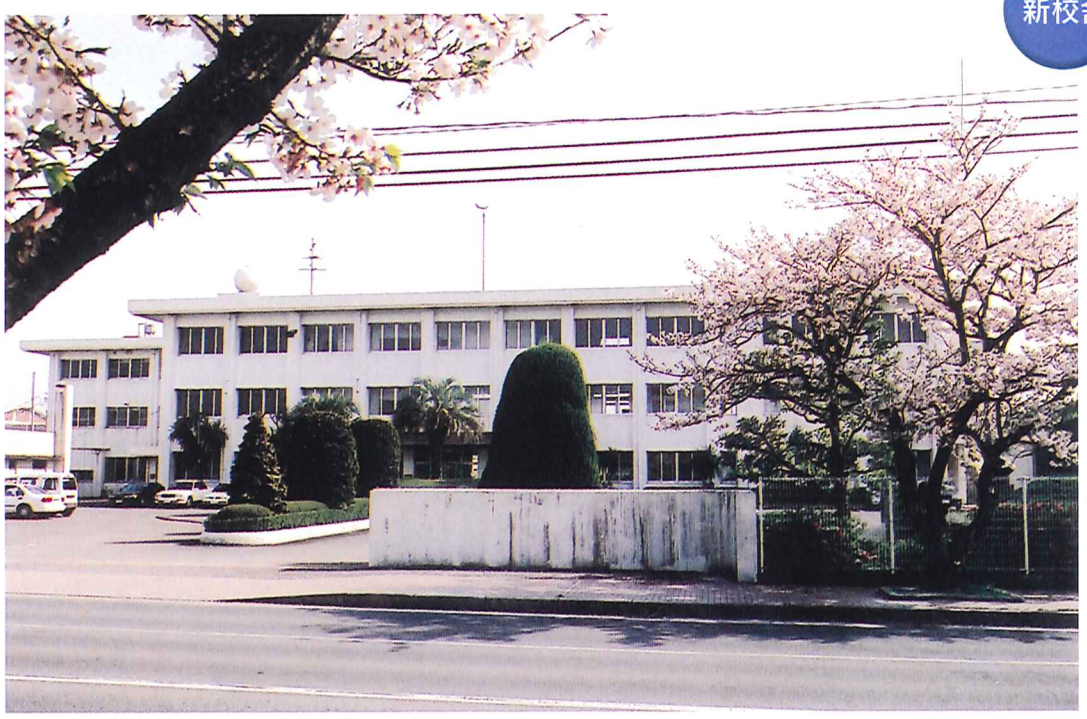


旧校舎

長崎市の旧校舎
(S37.6～S58.3)

昭和37年度に、長崎県消防学校を長崎市城山町に設置。

新校舎



現校舎
(S58.3～現在)

昭和58年4月、大村市森園町に移転開校。

消防学校50年のあゆみ 12.12.12 17:47 ページ 5



## 校訓

一、職責を自覚して
　規律厳正なる
　行動に徹する
一、謹厳実直にして
　学術技能の
　修得に邁進する
一、和衷協同して
　消防精神の
　涵養に努める
一、清潔明朗にして
　体力の向上に励む

旧校旗

新校旗（H3.4.1）

## 校歌

一、遥かに　黒潮映ゆる海ありて
　緑しげる多良岳をのぞむ
　ここに技を磨き　ここに学術を修む
　質実は姿　錬成は心
　　見よ誇りある使命は高く
　平和に光る未来をつくるわれら
　あゝ　長崎県消防学校

二、広く澄み渡る蒼き空ありて
　水にうつる桜花に匂う
　ここに和をつちかい　ここに理想を育む
　清廉は姿　団結は心
　　見よ限りなき信義は深く
　堅き守りの礎なるわれら
　あゝ　長崎県消防学校

消防学校50年のあゆみ 12.12.12 17:47 ページ 6



# 目次

CONTENTS


## ご挨拶

長崎県知事　中村　法道 …… 1

## 祝辞

財団法人長崎県消防協会会長　寺田　信雄 …… 3
長崎県消防長会会長　時津　哲郎 …… 4
長崎県消防学校学友会会長　半田　三知生 …… 5
長崎県婦人防火クラブ連絡協議会会長　松本　スミ子 …… 6

## 長崎県消防学校の概要

組織・沿革・施設の概要等 …… 7

## 回顧・卒業生寄稿

元長崎県消防学校長（第19代校長）　戸高　文尊 …… 13
元長崎県消防学校派遣教官（佐世保市消防局）　井上　惇 …… 14
元長崎県消防学校派遣教官（県央(組)消防本部）　田方　章 …… 16
西海市消防団長　井田　邦彦 …… 17
佐世保市消防局（第11期救急科）　村岡　昭治 …… 19
島原（組）消防本部（第62期初任科卒業生）　本間　聡志 …… 20
壱岐市消防本部（第60期初任科卒業生）　下條　遥 …… 21
大村市女性消防団　谷本　ななえ …… 22

## 消防学校学友会・歴代学校職員

歴代消防学校学友会会長 …… 23
消防学校学友会評議員（平成24年度） …… 23
歴代消防学校職員一覧 …… 24
現在の職員 …… 28

## 写真で見る50年のあゆみ …… 29

## 教育訓練実施状況 …… 41

消防職員・消防団員・その他の教育

# ごあいさつ

長崎県知事
中村　法道

長崎県消防学校創立50周年にあたり、ごあいさつを申しあげます。

本校は、県下の消防職員及び消防団員等の知識と技術の習得、規律及び体力の向上を図るという趣旨のもと、昭和37年6月、長崎市城山町に開校し、昭和58年3月、大村市森園町に移転して、今年で満50年を迎えました。

この間、県下消防関係者のたゆみないご尽力により、平成23年度末現在消防職員9,449名、消防団員32,632名、自衛消防隊、婦人防火クラブ等民間の防火協力者9,706名と多数の卒業生、修了生を送り出してまいりました。

消防学校のこれまでの歴史は、必ずしも平坦な道のりではなく、幾多の困難や苦労があったことと思います。歴代の本校関係者はもとよりこれまで本校において教育訓練にあたっていただいた講師の皆様に対し、深く敬意を表し、感謝を申し上げる次第でございます。

さて、消防を取り巻く環境は、少子・高齢化や、高度情報化、異常気象の発生、更には人々の価値観や生活様式の多様化など、大きく変化しており、想定される災害や社会情勢の動きに即した教育が求められております。

この50年間における本県の災害を顧みますと、消防学校が創立された昭和37年には811世帯、3,936名の方々がり災された「福江大火」、昭和57年には死者・行方不明者が299名にも及んだ「長崎大水害」、平成３年には火砕流により44名の方が犠牲となられた「雲仙普賢岳噴火災害」等の大規模な災害が発生しております。

消防学校では、消防関係者の本校に対するニーズやこれらの多様な災害及び事故に対応するため、昭和50年代は、救助科、火災調査科、予防査察科などの消防職員の専科教育の充実を図り、平成３年以降は、救急隊員の応急処置の拡大に合わせ、より高度な応急処置が行えるよう救急隊員の養成にも積極的に取り組んでまいりました。また、平成19年度からは、団塊の世代の大量退職に伴う新規採用職員の増加に対応するため、初任科の教育訓練課程をこれまでの年１回から春と秋の年２回にするとともに、事業所に勤務する消防団員の受講促進を図るため、研修の一部を金・土曜日開催とするなど、消防団員が受講しやすい環境を整備してまいりました。

県といたしましては、「安全・安心で快適な地域づくり」に向け、今後とも長崎県の消防の発展に資するよう、消防学校における消防職・団員等の教育訓練に全力をあげて取り組んでまいりますので、どうか関係機関、関係者各位におかれましても、なお一層のご指導、ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

結びに、長崎県の消防と関係各位の今後益々のご発展とご活躍を衷心より祈念し、ごあいさつといたします。

# ご 挨 拶